

# 尚綱学園 校地小史

尚綱学園の原点であった尚綱校は、創立当時昇町にありました。この場所は、現在安政町六、シミズ帽子店のあたりになります。大正四（一九一四）年に発行された最新熊本市街地図にはつきりと示してあります。大正九（一九二〇）年、昇町にあった尚綱校は、大江村九品寺の新社地に移転しました。



【新熊本市史 別冊第一巻 地図・地図 下 近代・現代】236  
最新熊本市街地図（大正四年） 熊本県立図書館

本市電が開通して八十年です。現在、市電は学園の裏門前の幹線道路を走っています。なぜ、尚綱学園の玄関である正門は、市電が走っている幹線道路側ではないのでしょうか。このことは、熊本大学薬学部・鎮西学園も同様です。実は熊本市東部地域の発展は、市電開通と重なり合っているのです。大正四年の地図をみればわかるように大甲橋



【新熊本市史 別冊第一巻 地図・地図 下 近代・現代】237  
最近実測熊本市街地図（大正十三年） 熊本県立図書館



現在の安政町周辺

は市電の開通までありませんでした。元来、水前寺方面への幹線道路は、下通から安巳橋を渡り、本校の正門前から熊本大学薬学部前を通るルートでした。そして、明治四〇（一九〇七）年十二月、熊本軽便鉄道株式会社が下通から安巳橋へ水前寺間に軽便鉄道を敷設しました。したがって、本校の正門前は、当時のメインストリートだったのです。ところが、市電を水前寺本門へ走らせることになった時、沿線地元住民から軌道施設だけでなく道路も併せて開発の要望



安巳橋の上を走る軽便鉄道【写真集熊本100年】熊本日日新聞社  
※軽便鉄道…石炭を焚き蒸気機関で軌道を走る小型の鉄道車両

があり、白川専用橋（大甲橋）の架設費が熊本電気会社から寄付され、幅約十八メートルの道路を新設して併用線とすることになりました。ここにおいて、九品寺から水前寺方

面の景観が変わることになりました。その後、本校北側に産業道路が開通し、ますます本校周辺の景観は移転当時と様変わりしました。本稿の作成に当たっては、菊池郡合志町在住の藤吉流さんにご教示をいただきました。

## エッセイ 花との会話

いくつになっても母から教わる花の名前がある  
散歩道で花屋の店先で戴きものの花束の中にも  
名前を呼ばなくても花は咲くけれど  
名前を知らなくても生きていけるけれど  
花の名を優しく抱いて眺める  
咲き方にも「生命(いのち)」が響いてくるような気がする

### あ

あなたは知っている花の名前をいくつ言えますか。人間同士もまず名前を交換し、相手の名前を覚えてから交流し、親しくなるのと同様、花についてもその名前を知らなければ親しみや愛着は出てこない。

漫然と花を眺める人ではなく、名前を覚え花と友達になり花にもやさしさが注げる人になれたらいい。

生け花・花芸安達流の家元安達種子さんは六才から生け花を始め、「花を切る時は、ごめんなさいと言うように」とお父さんから指導を受ける。生け花は盛り花と違い余分な花や枝を切り取り、減らしていく作業である。花の形がどこから見たら一番美しいかということを考え、余分なものを切り捨てていく芸術、それ故切り取られたもの、捨てられたものの重みを担っている作業であることを忘れてはならないという。

また中学生の時お父さんと武蔵野の草原を歩きながら、「一生花を足で生けなさい」と教えられる。

花を足で生ける。

自然の中の木や花をよく見て歩き、こまかく観察し、それらのことに詳しく、いとおしくなる位好きになりなさい。かといってそれに溺れてもいいけない。

そして、生け花に人間の歌を押しつけるのではなく、本質を見抜いてそれらの良さを歌い上げなさい。

椿に口があるとしたら「あなたの生けてくれた椿は自然の私よりももっと私らしい私だ」と言つて喜んでくれなければいけないという。

美しい花がある。花の美しさというものは、花を美しいと思う人間の心があって、はじめて美しい花も存在することになる。花を見てもその人に感じる価値尺度がなければ花は見えない。

「よく見ればなすな花咲く垣根かな（芭蕉）芭蕉は花を摘みとることを望まない。それに手を触れさせない。

見つめることによって花と一体化することと花を生かすことを喜びとした。

道端の小さな草花にも、ふと視線をやり、そこから何かをつかもうとするそんな鋭さと、豊かさを身につけた人でありたい。そしてさらに花に語りかけ、花と会話ができるようになれたら最高である。自然はそれを愛するものの心を裏切ることは決してない。

### 皆様のオリジナルエッセイの投稿を募集しています

オリジナルエッセイであれば、特にテーマや特定のジャンルまた、応募資格も問いません。本文800字前後にてお願いいたします。（随時募集）応募の際には必ず氏名、住所、電話番号を明記してください。作品は本誌上への掲載をもって発表と換えていただきます。

#### ●作品の宛先・お問い合わせ

尚綱学園事務局 広報室宛 〒862-8678 熊本県熊本市九品寺2丁目6番78号  
メールでの応募も受け付けております ◆[メールアドレス] kohou@shokei-gakuen.ac.jp